

令和5年度 東国文化自由研究

「すごい群馬」

～古墳のPRとメディア効果～

群馬県高崎市立並榎中学校 3年 永井茉緒

1. はじめに

2020年の春、家族から古墳に行ってみないかと提案された。

女優の吉永小百合さんが群馬の古墳を巡るテレビCMが放映され、それを見た祖母が前橋の大室古墳群に行きたいと話しているという。古墳を見て楽しいのかな？と少し疑問を抱きながらもドライブがてら皆で出かけた大室古墳群は一帯が広大な公園となっていて緑豊かな場所でもとても解放感を感じた。ロケ地となった埴輪や石室を見て祖母はとても嬉しそうで、コロナ禍の貴重な外出の思い出になった。

今回、東国文化の自由研究にあたり真っ先にこの記憶が頭に浮かんだ。私が普段馴染みのない古墳を訪れたきっかけとなったのは、テレビCMだった。調べると、当時CM見た人々がロケ地の古墳に詰めかけていたこともわかった。メディアには強い影響力がある。

しかし、古墳大国である群馬の「すごい」歴史は残念ながら私たちのような若い世代にあまり浸透していないのも現実だ。

そこで、私はCMの効果や古墳のPR活動について調査するとともに、今後どうしたら東国文化や素晴らしい文化財をより広い層に知ってもらえるか、ということ切口として自由研究をしてみたい。

2. メディアの効果

「大人になったらしたいこと」のキャッチコピーのもと吉永小百合さんが東日本の自然豊かな観光地をめぐる、JR東日本 大人の休日倶楽部のテレビCM。

古墳王国群馬編は2020年2月13日から約2週間にわたり放映された。

「かつて1300基以上の古墳が存在したという古墳王国、群馬。歴史とは学ぶものではなく旅することかも知れません。」という吉永小百合さんのナレーションとともに大室古墳群を旅する様子や保渡田古墳群の映像が写し出された。



高崎前橋経済新聞記事（2020年3月17日）より

群馬「古墳」吉永小百合さん効果で10倍も 大型駐車場混み合う

吉永小百合さんが出演したJR東日本「大人の休日倶楽部」のテレビコマーシャルに登場した「大室古墳群」「保渡田古墳群」に多くの人が詰めかけている。

大人の休日倶楽部のコマーシャル「古墳大国群馬編」は(中略)「古墳」にスポットを当てたことが新鮮な印象を与えたとみられる。大室古墳群（大室公園 前橋市西大室町）、保渡田古墳群（かみつけの里博物館 高崎市井出町）とも駐車料金が無料のため、正確な利用台数は把握できないが、大室公園では500台以上ある駐車場が混雑する状態が続いており、「かみつけの里博物館」の2月の来場者数は通常の10倍になった。

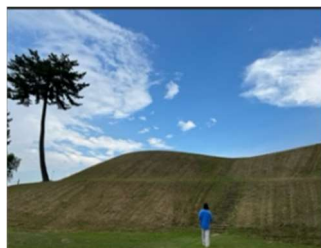
大室公園の管理担当者は「屋外で人が密集しない場所だからか、とにかく多くの人々が来園している。他県ナンバーも目立つ」という。また、前橋市は定期バス（JR前橋駅＝大室公園）の運行を平日5便から9便に、土日5便から6便に増やした。

かみつけの里博物館の担当者は「新型コロナウイルスの影響で入館者はやや少なくなっているがそれでも通常の2～3倍。古墳だけ見る人もいるのでやはり多くの人々が来ている印象」と話す。

3. 現地調査

新聞記事に記載があった大室古墳群と保渡田古墳群を訪問し、私が感じた現地の印象を改めてまとめた。また、博物館を管理する方にインタビューを行いCM放映があった2020年当時の様子などを伺った。

【大室古墳群】



現地の印象

駐車場に着くまではかなり細い道を進むため少し迷ってしまった。アクセスが良いとはいづらい場所にある。ロケ地として有名になった前二子古墳は改めて、大きい！という印象を抱いた。埴輪がずらっと並んでいる様子が見えるのも興味深い。この日は青空で、写真を撮ると古墳の姿がきれいに映えた。石室は南側にあったが、案内などは見当たらず、古墳をぐるっと回ってたどり着いた。石室の中は、まるで黄泉の国への入口のようだとされるだ

けあり神秘的で、ここから埋葬品が出土したのかとわくわくする空間だった。全体が広大な公園となっており、古墳のほかにも数多くの遺跡が点在していた。公園には遊具もあり、家族連れで訪れても楽しめる場所だと感じた。

場所を移動し、敷地内の民家園とはにわ館へ向かったが、ちょうど改修工事期間の閉館と重なってしまい見学することはできなかった。

そこで後日、前橋市文化財保護課へお電話し、職員の本間さんにお話を伺った。

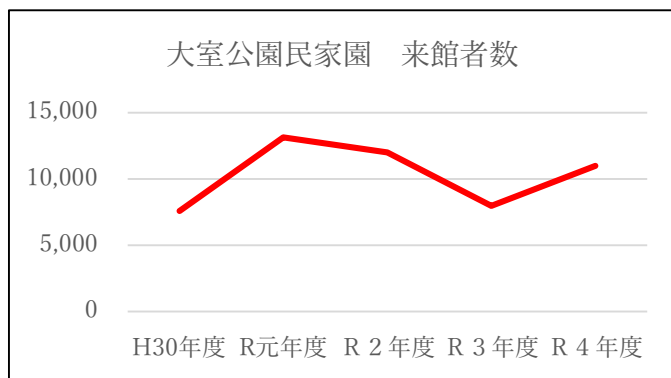
『民家園は7月より改修期間となっている。CMで紹介されたのは2020年2月で、その後から多くの観光客が大室古墳に訪れ、駐車場はほぼ満車の状態が続いていた。パンフレットや案内チラシを民家園に置いているが、すぐになくなってしまいうので毎日補充をしないと間に合わないほど賑わっていた。』とのことだった。大室公園では、市民ボランティア「大室古墳(つか)の語り部」による1時間ほどのツアーガイドを開催しており、希望があれば随時受付して下さる。現在17名ほどの方がガイドとして登録されているようだ。

また、お電話で民家園の来館者数を教えて頂いたのもそれをもとにグラフを作成してみた。

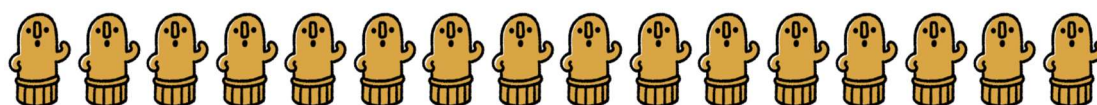
【大室公園民家園 来館者の推移】

H30年度(2018年4月～2019年3月)	来館者数	7,591人
R1年度(2019年4月～2020年3月)	来館者数	13,138人
R2年度(2020年4月～2021年3月)	来館者数	11,996人
R3年度(2021年4月～2022年3月)	来館者数	7,977人
R4年度(2022年3月～2023年4月)	来館者数	10,978人

2020年2月にCM放映



R元年度の末には、CMの影響により来館者数を前年の2倍近くまで伸ばし、そのままの勢いでR2年度に入ったと考えられる。また、R2年4月に緊急事態宣言が発令され、コロナの影響で休館を余儀なくされる期間があったことを考慮するとR2年もかなり多くの来館者があった。R3年は一度落ち込んだがR4年にはまた回復している。



【保渡田古墳群】



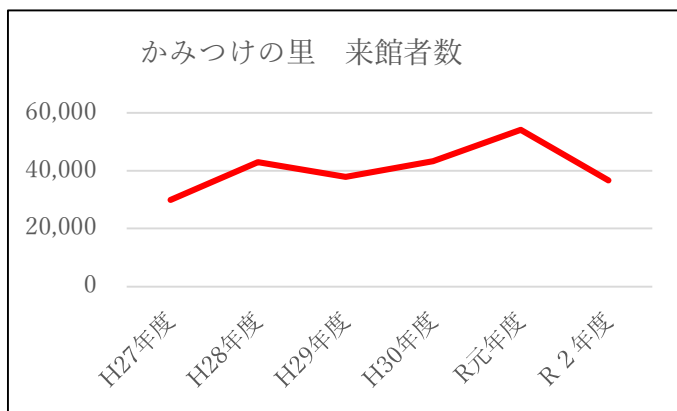
現地の印象

保渡田古墳群は自宅から比較的近いいため何度か訪れた場所だ。復元された古墳と埴輪群が見事で、周囲も綺麗に整備されており、青空の下でとても気持ちが良い。訪問した日は、ちょうどはにわの里公園近くでやっていた「ひまわり迷路」に最初に目を奪われてしまった。家族連れや若い人でとても賑わっていて、遠方から訪れている様子の人もいた。ひまわり迷路や埴輪、古墳をバックに写真を撮っている人や、ランニングしたり犬の散歩をしたりする人の姿も見られ、近所の人にも愛されている印象だった。

次に「かみつけの里博物館」を見学し、職員の小泉さんにお話を伺った。

『2020年2月当時、土日は特に遠方からこの地を目指して訪れる人が多く、かみつけの里博物館も、普段100人ほどの来館者が1000人以上となるなど、新聞記事通り約10倍の来館者数となる日があった。また、八幡塚古墳にはCMで紹介された石室があると勘違いされやすいが、実際に紹介されたのは前橋の大室古墳の石室。八幡塚古墳は最後の空撮に使用され、全体像が放映された。』とのことだった。かみつけの里博物館の一角には今も大人の休日倶楽部のポスターが貼られていた。また、『仮面ライダーのロケ地となったこともあり、その時も多くの人が訪れた。他にも、クイズ番組や高崎を紹介するテレビ番組などで古墳が紹介されると来館者が増えることがあり、テレビの宣伝効果は大きい。』とのこともあった。最後に資料「高崎市文化財保護年報(令和2年)」を見せていただいた。

平成27年から令和2年まで6ヵ年の来館者数の推移は以下の通り。



3. かみつけの里博物館

(1) 基本情報

- ①所在地：高崎市井出町1514番地、②構造：鉄骨コンクリート造・地上2階
- ③第一棟面積：2301.89㎡、④建築年：平成9年3月
- ⑤入館料：大人200円、学生(高校生・大学生)100円、中学生以下60歳以上、障がい者とその付添い人1名は無料
- ⑥館の基本的性格：保渡田古墳群や三ツ石1遺跡出土品をはじめ、高崎市地域の考古資料の展示、北越支那の歴史をテーマとした、教育普及活動を主とする。
- ⑦職員：16人【内訳】館長(職)1、次長1、主任職員3(内、学芸担当2)、職員2、臨時職員8
- ⑧令和2年度入館者数

36,992人(内訳：有料13,849人、無料22,746人)
(内訳：一般24,257人、中学生以下4,295人、65歳以上9,960人)

⑨総入館者数の推移(6ヵ年)

27年度 29,981人、28年度 42,968人、29年度 37,825人
30年度 43,210人、元年度 54,159人、2年度 36,992人

(2) 常設展示

鎌倉山麓地域の古墳時代の世界を、模型と出土品で構成し展示する。空襲犠牲や出土品の調査研究を基礎として、愛国を含む東アジアにおける土着地域の位置付けを考究する内容。

(3) 特別展・企画展

① 夏季体験型展示「わくわく博物館法輪 20」/概要：古墳づくりゲーム等を提供
開催期間：7月22日～11月1日 /入館者：21,227人

② 常設特別展「石の器」/概要：群馬県出土の須恵器を展示。
開催期間：12月12日～3月1日 /入館者：4,039人

(4) 教育普及

①講座

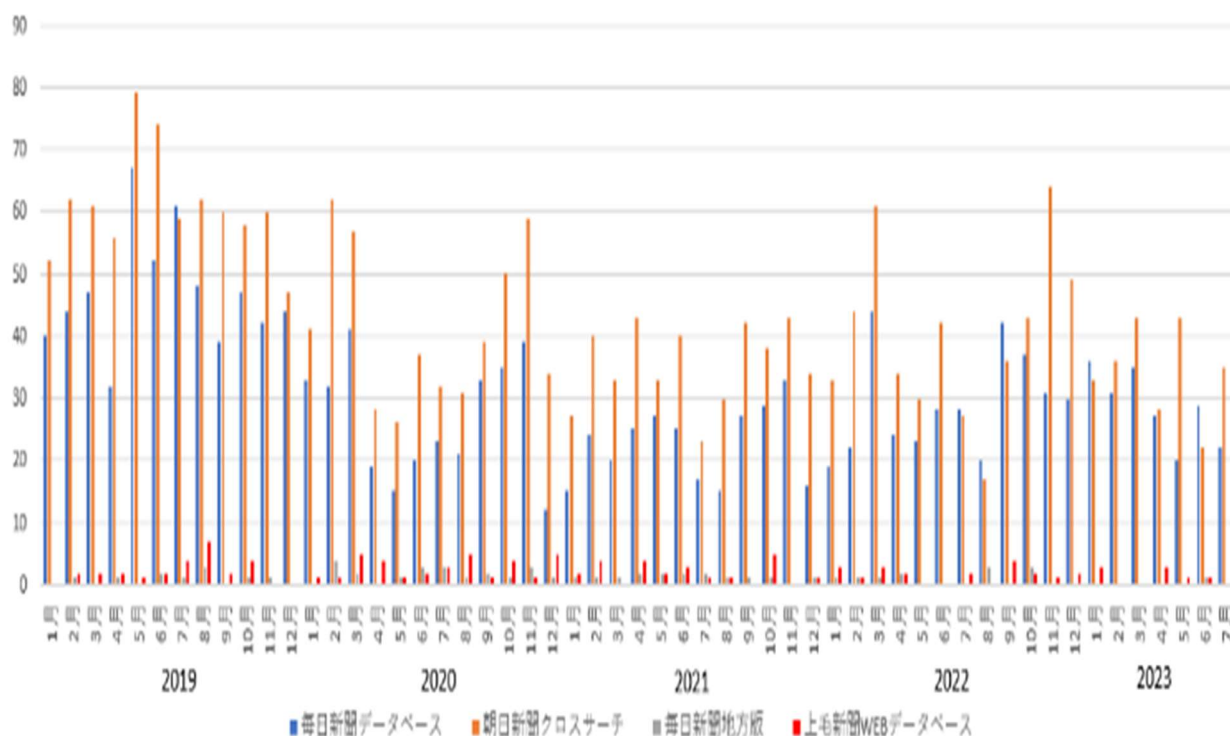
ア、定期定額講座「かみつけ塾」/中止
イ、特別講座「展示期間中に1回実施」

(H27年度 29,981人 H28年度 42,908人 H29年度 37,825人 H30年度 43,210人
R元年度 54,159人 R2年度 36,592人)

入館者数は平成27年度よりほぼ横這いだったが、令和元年度(2020年)には総入館者数が54,159人となり、前年と比較して1万人以上増加していることがわかる。2020年は4月にコロナウイルスによる緊急事態宣言が発令され外出の行動制限があったことを考慮すると、驚異的な伸びであったといえる。

4. 新聞記事の調査

現地調査の結果からもCMの影響で大室古墳群・保渡田古墳群に多くの人を訪れた事が分かった。そこで今回は、CMの影響で全国的にも古墳への興味が高まったのか知るため、全国版の新聞記事で古墳や埴輪が取り上げられた件数を調査した。高崎図書館の閲覧システムを利用し、朝日新聞クロスサーチと毎日新聞データベースで「古墳・埴輪」をキーワード検索にかけ、それらの語を含む記事の数を2019年～2023年までの全国版で調査した。毎日新聞データベースには地方版に絞った件数抽出機能があったため、群馬版のみの件数推移も併せて調べた。また、上毛新聞の記事も調査したかったため、インターネット上で上毛新聞WEBデータベースの検索機能を使い、同様に検索し記事の件数を調べた。以下がグラフである。



まとめたグラフの結果から、全国版で古墳・埴輪の記事の件数が最も多かったのは2019年だったことが分かった。調べると、2019年には大阪の百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録され、全国的に古墳が話題となっていたようだった。また、CMが放映されたのは2020年2月であるが、2020年4月からは逆にぐっと記事の数が減っている。これは、コロナの緊急事態宣言との関連が大きかったと考えられるが、毎日新聞の地方版と上毛新聞では2020年に僅かに記事の件数が増加している。全ての記事の検証はできなかったが、CMを取り上げた記事もいくつかあった。

しかし、この調査の結果からは、全国的に古墳への興味が高まったのかどうかは判明しなかった。

5. 人々が古墳を訪れたのはなぜか？

CMを見て人々が古墳を訪れた一番の理由は、古墳の認知度が上がったことだと考えられる。もともと古墳や歴史に関心があった人がCMをきっかけに訪れただけでなく、CMを見てなんとなく古墳に良い印象を持ち行ってみようと思った人も多かったのではないかと感じた。吉永小百合さんが楽しそうに古墳を旅する様子が人々の共感を得て、古墳のイメージアップにつながったのではないか。特に大人の休日倶楽部のターゲットである50代以上の人の心を動かしたように思う。祖母もその一人だった。

また、CMの放映時期がコロナ禍の外出自粛時期の直前だったこともあり、密になる場所が敬遠されていた期間の外出先として、自然豊かな古墳が選ばれたことも要因にあると思う。

6. 古墳のPR活動

東国文化ポータルサイトを拝見して、群馬県には様々な古墳や埴輪のPR活動があり群馬のイメージアップや観光誘客に活用されていることを知った。平成30年に行われた「群馬HANIー1グランプリ」や「HANIーアプリ」は可愛いイラストが印象的で、人々の記憶に残りやすいと感じた。群馬県公式Instagram「ぐんまハニスタグラム」をフォローしてみると、8月20日（ハニワの日）に「はにわパーティ」があることを知り、実際に行ってみた。



当日は想像よりも沢山の人が来ていて驚いた。グッズの販売やカフェとコラボした「はにわカフェ」、子供が工作できるコーナーもあり、幅広い年代の人が楽しめるようになっていた。後日、はにわパーティの様子がインスタグラムに投稿され、次のイベント誘致につながるようになっていて、東国文化のPRとしてとても良い取り組みだと感じた。

7. PR の提案

どうしたら私たちのような若い世代に古墳や埴輪の魅力を感じて貰えるか？

私は以下の2つを提案したい。

ライトアップで写真映え SNS 作戦

今回、2か所の古墳群を訪れてみて、古墳はとても写真映えすることに気がついた。訪れた場所が比較的整備された大きな古墳であることも関係しているが、大空の下に存在する古墳はとても気持ちの良い場所で、面白い写真を撮ることができる。

そこで、昼間だけでなく、日が落ちた後も人々が訪れる話題の場所となるよう、ライトアップイベントを提案したい。キャンペーンやフォトコンテストも同時に開催し、「ぐんまハニスタグラム」のハッシュタグをつけて自由に投稿してもらうのはどうだろう。

見た人に興味を持ってもらえるような投稿が増えれば、若い世代にも古墳の魅力を知ってもらえるのではないかな。



(イメージ)

古墳をめぐるサイクリングツアー

古墳を訪れた際、古墳の敷地は広いので、歩いて観光するのは意外と大変だった。そこで、自然豊かな古墳の周りを自転車で巡ることができれば、多くの人を誘致できるのではないだろうか考えた。古墳は比較的交通の便の悪い場所にあることが多いので、途中まではバスで移動し、高崎市の高チャリのような自転車共有システムで自転車を借りることができれば面白いと思った。自転車は、二酸化炭素を出さず環境にやさしいエコな乗り物として注目されているため、自然豊かな古墳をめぐるツアーに利用するのにぴったりだと思う。コロ

ナ禍をきっかけにキャンプやアウトドアに興味を持つ人が増えており、若い人にもアピールできるのではないか。



8. さいごに

今回の自由研究で、自然を感じながら古墳の周辺を歩ける事はとても興味深く、贅沢な体験だと感じた。古墳や埴輪には様々な歴史的背景があり、知れば知るほど面白い。そのような古墳が群馬には沢山あることをもっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

調査の結果、影響力を持つメディアに古墳が取り上げられれば、知名度があがり、イメージアップにつながるということが分かった。しかし、まだ古墳がメディアに取り上げられる機会は少ない。そこでまず、地元に住む私たちが出来ることは、先程提案したライトアップやサイクリングツアーなどの新しい取り組みによって古墳の魅力アップをはかる事だと思う。そうする事でメディアに取り上げられる機会が増え、幅広い年代の人々が古墳を訪れるようになるかもしれない。

参考資料

- ・ JR 東日本 大人の休日倶楽部 <https://www.jreast.co.jp/otona/tvcm/kofun.htm>
- ・ 世界遺産登録およびコロナ禍がもたらす古墳ブームの変化と文化財活用の将来像 [jishukenR2.pdf \(osaka-u.ac.jp\)](https://www.osaka-u.ac.jp/~jishukenR2/pdf)
- ・ 高崎市立図書館 データベース
- ・ 上毛新聞 WEB データベース <https://www.jomo-news.co.jp/list/service/db>
- ・ 「高崎市文化財保護年報」(令和2年)
- ・ 東国文化ポータルサイト「自転車で楽しむ歴史文化遺産めぐり」
<https://www.pref.gunma.jp/page/3820.html>

・インタビューに対応して下さった前橋市文化財保護課の本間さん、かみつけの里博物館にいらした小泉さん、丁寧にいろいろと教えて下さりありがとうございました。